

日本のポンペイ

～ 渋川市の遺跡を探る ～

No.1

『渋川とポンペイ』

「日本のポンペイ」と称される遺跡が全国各地にあります。いずれも、その近くにある火山の大噴火によって地域一帯が完全に埋没してしまっているからです。

ポンペイは、古代ローマの都市遺跡で、その北西方のヴェスヴィオ山の西暦79年の大噴火により完全に埋没してしまいました。近世以降の度重なる発掘調査により、古代ローマの都市が手に取るようによみがえってきました。世界的にも有名ですから、現地を訪ねている市民の方も数多くおられるのではないのでしょうか。

榛名山は、今からおよそ1520年前と1490年前の2度の大規模噴火があり、その噴出物によって現在の渋川(市域に当たる山麓一帯(旧子持・赤城村も含む))が完全に埋没してしまいました。そのため、最初の噴火で埋没していた中筋遺跡や二度目の噴火で埋没していた黒井峯遺跡は、日本のポンペイと呼ばれることがよくあるわけです。最近では、最初の噴火の犠牲になった「甲よかいを着た古墳人」が発見され、テレビ・新聞を大いににぎわした金井東裏遺跡も「日本のポンペイ」と呼ぶのに相応しいでしょう。

これらのことはとりもなおさず、渋川市域全体が、日本の古墳時代を解明していく上で重要な地域であることを物語っています。次号以降、本誌上で関係する渋川の諸遺跡の内容や価値を具体的に紹介していきたいと思いたいで、ご愛読のほどお願いします。

(群馬県立歴史博物館 館長 右島 和夫)

○このコーナーでは、榛名山噴火に関連する市内の遺跡について紹介します。(毎月15日号掲載)



ポンペイ遺跡とヴェスヴィオ山